

**令和４年度瀬戸内海の地域課題解決に取り組む高校生サミット
第１回地域課題ワークショップ**

日 時	令和４年７月２４日（日） ９：５０～１６：３０
場 所	神戸市漁業協同組合須磨浦漁友会集会所、須磨海岸
参加者	神戸市立六甲アイランド高校（２）、兵庫県立加古川東高校（３）、兵庫県立御影高校（３）、兵庫県立星陵高校（３）、兵庫県立農業高校（３）、広島県立広島国泰寺高校（３）、山陽学園高校（４）、兵庫県立尼崎小田高校（１７） 生徒３８（男子２２、女子１６）、教員１６、来賓８、大学院生３
内 容	高校生サミットの取組のスタートとして、まず、テーマの共有を目的に研修を行った。これまで海からの視点だけで環境を考えていたものを、海と山のつながり、環境のつながりの視点で考えていく基礎作りを行った。午前中は、海と山のつながりの背景知識を学ぶため、「森と海のつながり」「神戸の山の活動を通して」「漁師から神戸の海の問題について」の３つの講義を受けました。 午後の須磨海岸での実習では、３班に分かれてそれぞれ３種類の実習（プランクトン採集・碎波帯ネットによる生物採集・セディメントトラップ）を行いました。 その後、集会所に戻り、各地点での採取の結果を観察・共有しました。須磨里海の会会長の吉田様よりまとめの話をいただき、本日の実習についてグループディスカッションをして振り返りました。
生徒の感想	今まで、海の栄養塩やプランクトンなどの関係について浅い知識だったが、理解を深めることができた。驚いたのは、日によってもプランクトンの量が違い、海の色からもそれを見て取れることでした。 海の色の話では、きれいすぎるのも良くないということが驚きだった。観光資源としては透き通った水に価値があるが、海にいる生物のことを考えると、すこし濁っている水の方がいいということであった。

写 真	
	
プランクトン採集	碎波帯ネットによる生物採集
	
セディメントトラップ	採集物の観察

**令和４年度瀬戸内海の地域課題解決に取り組む高校生サミット
第２回地域課題ワークショップ**

日 時	令和４年９月１０日（土） ９：４０～１６：３０
場 所	神戸市漁業協同組合須磨浦漁友会集会所、須磨海岸
参加者	神戸市立六甲アイランド高校（２）、兵庫県立星陵高校（３）、兵庫県立農業高校（３） 広島県立広島国泰寺高校（３）、山陽学園高校（３）、兵庫県立加古川東高校（２）、 兵庫県立御影高校（３）、兵庫県立尼崎小田高校（１６） 生徒３５（男子２１、女子１４）、教員１６、来賓５、大学院生２
内 容	須磨海岸での実習では、集会所で須磨里海の会の吉田様から実習についての説明を受け、３班に分かれてそれぞれ３種類の実習（小形地曳網の曳網・小形地曳網の採取物の選別・漂着物調査）を３地点で行いました。 その後集会所に戻り、須磨里海の会や須磨海浜水族園の職員の方々の指導や助言を仰ぎながら地曳網による採集物と漂着物の選別作業を実施しました。また、各班の集計を一覧表にまとめると、採集した場所ごとに特徴がみられ、その要因についての説明を受けました。 最後には、須磨海岸の変化について講義を受けました。近年、水温の上昇などの影響から、海底に生息するアオモの減少が見られ、これが海の生態系に悪影響を与えていることを学びました。
生徒の感想	同じ場所の海だから、生物の数はあまり変わらないのではと思っていたが、３地点で数の変化がとて大きく、少し環境が変わるだけで、生物にも大きな違いがでることが分かった。砂浜と街は互いに影響しあっていると知り、何か一つでも崩れると全てが崩れてしまうと感じた。自分の行動が、どのような影響を与えるのか想像できることが必要だと実感した。

写 真

	
小形地曳網の曳網	砂浜漂着物調査
	
採集物の観察	ディスカッション

**令和４年度瀬戸内海の地域課題解決に取り組む高校生サミット
第３回地域課題ワークショップ**

日 時	令和４年１０月２３日（日） １０：００～１６：４０
場 所	兵庫県立人と自然の博物館、三田市南公園（ブイブイの森）
参加者	神戸市立六甲アイランド高校（２）、兵庫県立加古川東高校（２）、兵庫県立御影高校（２）、 兵庫県立農業高校（３）兵庫県立星陵高校（３）、広島県立広島国泰寺高校（３）、 兵庫県立尼崎小田高校（１８） 生徒３３（男子２８、女子５）、教員１６、来賓４ 大学院生２名
内 容	午前中の実習は、人と自然の博物館で森での行動の注意点などの説明を受けた後、ブイブイの森での里山実習で自然や植物などと触れ合いました。 午後は、森林土壌学の講義を受け、森のでき方などを学びました。また、館内の見学もすることができ、午前中の実習で学んだことをより深めることができました。 最後にグループディスカッションで本日の学びについて議論・復習し、発表しました。
生徒の感想	人が手を加えて作られた自然があり、それを放棄することで壊れる自然もあると知った。人間が生み出した自然も人間が壊した自然も全て自分たちが責任をもって保全する必要がある。ただ、伐採しすぎたりするとバランスが崩れ、悪化してしまう。長期間、多角的な視点を持つことが重要である。

写 真



里山実習 1



里山実習 2



講義：森林土壌学



ディスカッション

令和４年度 地域課題解決に取り組む高校生サミット～兵庫から日本を考える～ (第１２回瀬戸内海の環境を考える高校生フォーラム)	
日 時	令和４年１１月２０日（日） １０：００～１６：３０
場 所	兵庫県立尼崎小田高等学校
参加者	◆協力校４９校（来校参加校２２校、オンライン参加校４校〔両方参加１校含む〕、紙面参加校２４校） ◆来校参加者１９６名（生徒１１３名、教員４７名、来賓３２名、大学院生・研究生４名） ◆オンライン参加者 ３９名（生徒 １９名、教員 ５名、来賓１５名） ◆参加者 計２３５名（生徒１３２名、教員５２名、来賓４７名、大学院生・大学生４名） ・来校発表校（ ）は各校の参加生徒数 神戸市立六甲アイランド高校（２）、兵庫県立加古川東高校（１８）、兵庫県立御影高校（４）、 兵庫県立星陵高校（６）、広島県立広島国泰寺高校（４）、広島県立広島高校（３）、山陽学園高校（３）、 兵庫県立農業高校（４）、兵庫県立兵庫工業高校（１）、兵庫県立伊丹高校（４）兵庫県立神戸高校（５）、 兵庫県立西宮今津高校（２）、兵庫県立小野高校（１２）、兵庫県立三木北高校（３）、 兵庫県立香住高校（６）、神戸市立科学技術高校（３）福井県立若狭高校（３）、 和歌山県立海南高校（２）、香川県立多度津高校（２）愛媛県立長浜高校（２） 大分県立海洋科学高校（２）、兵庫県立尼崎小田高校（２２） ・オンライン参加校 兵庫県立三田祥雲館高校、徳島県立徳島科学技術高校、愛媛県立宇和島東高校 福井県立若狭高校
内 容	午前の部はポスターセッションと並行してオンライン発表も行いました。午後の部は「環境のつながり」をテーマに３つの論題についてのボードディスカッション、オンラインによるディスカッション、報告会を行いました。
生徒の感想	ポスターセッションでは、専門の先生方から鋭いご指摘やアドバイスを頂くなど、大変刺激になりました。また、他の学校の発表や質疑応答から、色々な考え方が深められてとても良かったです。ディスカッションでは、それぞれ専門に学んでいる内容が違う高校生同士で集まり議論をするので、いろいろな意見もあり、楽しめるとともに学びも多かったと感じています。非常に、有意義な時間を過ごすことができました。

写 真	
	
ポスターセッション	ボードディスカッション
	
報告会	集合写真

高大連携フォーラム in 京都大学

日 時	令和4年12月24日(土) 10:30～14:50
場 所	京都大学吉田キャンパス 人間・環境学研究科大講義室
参加者	神戸市立六甲アイランド高校(4)、兵庫県立加古川東高校(12)、兵庫県立御影高校(4)、兵庫県立星陵高校(5)、兵庫県立農業高校(4) 広島県立広島国泰寺高校(4)、山陽学園高校(8)、兵庫県立尼崎小田高校(16) 生徒57(男子26、女子31)、教員19 京都大学教授・大学生・大学院生(27)
内 容	午前に高校生サミットの取組紹介、ポスターセッションを行い、それについて京都大学の大学院生・大学生との意見交換会を行いました。発表を行い、アドバイスをいただく貴重な体験ができました。 午後は生徒実行委員会と振り返りを行いました。また、この一年間の高校生サミットの一連の取組を振り返り、どの様なことが学べたか、さらに学びたいことをまとめました。
生徒の感想	地球環境についての問題は、理系の問題として取り組まれることが多いが、文理関係なく皆で取り組まなければならない問題であると感じた。環境問題も、経済学と結びつけて、解決策を考えていく必要があると感じた。

写 真



高校生サミットの取組紹介



ポスターセッション



意見交換会



一年間の振り返り